

あひるのチャレンジ

令和7年12月11日



下記は、12月1日朝日新聞の記事です。まずは、ご一読ください。（字が小さくてすみません…。）

東月 一 美術 開

2025年(令和7年)12月1日(月)

第3種郵便物認可

「男のスカート変だよね」子に言われたら

— ジエンダー・バイアスを植え付けないよう注意してきました。——「女の子はピンク」「男の子は青」みたいな話をつけてそのままにどうては悪気のない、素直な感想なんだと思います。大人は自分の知識とひもづけて「偏見」って言っちゃいます。——どういふことじよか。大人たちはジエンダーについてどこまで考えて、どこまで話を詰めてから子どもにおろしていっているのだろう、と思います。例えば、ジエンダーに関する絵本がありますね。LGB TQの存在や多様な家族の形があることなどを伝えるも

の押しつけによって苦しむ人がいるのは事実です。でも、幼い子どもが口にしたことに対する対してすかさず「偏見だ」と言うのは、僕はちょっと違うと思っています。

— 「男らしさ」「女らしさ」の押しつけによって苦しむ人たつもりでした。——「女の子はピンク」「男の子は青」みたいな話をつけてそのままにどうては悪気のない、素直な感想なんだと思います。大人は自分の知識とひもづけて「偏見」って言っちゃいます。——どういふことじよか。

保育士 天野論さん「聞く

「ママ、男がスカートはいやだめだよね」。先日、4歳の娘の言葉にぎくりとしました。幼い子どもに养生え始めたジエンダー・バイアスに、大人はどう向き合えばいいのでしょうか。ジエンダーの問題に詳しい保育士の天野論さんと聞きました。

芽生えるジエンダー・バイアス「正しさ」押しつけず

対話しながら問い合わせ「みんな違う」を当たり前に

——どういふことじよか。大人たちはジエンダーについてどこまで考えて、どこまで話を詰めてから子どもにおろしていっているのだろう、と思います。例えば、ジエンダーに関する絵本がありますね。LGB TQの存在や多様な家族の形があることなどを伝えるも

の違ひを受け止めない態度につけがついている。——どういふことじよか。大人たちはジエンダーについてどこまで考えて、どこまで話を詰めてから子どもにおろしていっているのだろう、と思います。例えば、ジエンダーに関する絵本がありますね。LGB TQの存在や多様な家族の形があることなどを伝えるも

のね」とまず話を聞いてみる。「なんでもう思つたの？」「スカートは女の子のものつて決まつてののかな」と一緒に考へる。



それでも、語りなおす必要がある
未来志向の保育ジエンダー論

(著者: 伊藤舞虹)

私は、この記事を読んで、反省すべきことがありました。ただ、改めて大切な思うこともありました。

- 大切なのは、その発言を否定せず、議論のきっかけにすること。
- 子どもと対話しながら、ともに「変だよね」を解きほぐし、問い合わせしていくプロセスが必要。
- 意見や自己表現のあり方が自分と違うからといって相手をいじめていいなんてことはない。
- 「みんな違ってるけど、別にどうでもいい」ぐらいにならないといけない気がします。
- 人と違なうことが当たり前になる環境を作つていけば、誰がどんな格好をしたってどうでもよくなる。

「ちがいを認め合える」社会に

あひるのチャレンジの「チ」である「ちがいを認める」。私たち大人が環境を作るとともに、子どもと対話しながら理解させていくことが必要だと感じています。

また、「まだ『みんな違って、みんないい』という気持ちを100%もてていなくても、いじめはいけない」ということを私たち大人が伝えていかなくてはいけません。

ちがいを認め合い、誰もが過ごしやすい学校や家庭、地域を作つていくためにも、学校と家庭、地域が一つのチームになっていくことが大切です。

今後も学校の取り組みにご理解ご協力いただきますよう、よろしくお願ひします。